
笑談～ぐっどもうにんぐ編～

白黒 朝夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

笑談ぐつどもうにんぐ編

【Nコード】

N8230N

【作者名】

白黒 朝夜

【あらすじ】

雑談ぐアリス編の短編版です。

雑談を見て無くても楽しめると思いますよ。

あ、注意ですが

腐向けです！そこさえ理解していただければokです。

（前書き）

腐向けです。

てか、冗談として見て下さい。

遅い。

俺、エージエは待っていた。

先生が遅刻するなんてありえない！

「先生はいつも遅刻するから、一時間目は自習だよ。」
隣で白雪さんが教えてくれる。

いや、この人たちは、20回ぐらい人生をやって、
高校レベルの授業なんか簡単かもしれないけど、俺は違う。

高校を卒業したら職業について、幸せな家庭を築きたい。
だから、勉強をするんだ！！

「僕、先生を呼んできます。」
そう言って、教室を出る。

俺はクラスでは優等生をたもっている。
だから、みんなのまでは自分の事を「僕」と言っている。

ひとまず、自分の部屋に戻る。
そして、引き出しの奥のほうを探す。

「あつた！」

先生の部屋の鍵だ。
帽子型のキーホルダーが付いた鍵で、

先生に無理やり持たされた。

この鍵は、先生が寝ていたときの手段として持っておく。

そして、俺は先生の部屋に着くと、ノックをした。
・・・寝てるのか？

仕方が無いので、鍵を開けて中に入る。

「先生・・・・・・・・！？」

俺は固まってしまった。

ベッドにはハッター先生とマーチ先生と一緒に寝ていた。

いや、それならまだいい。
問題は、

二人が裸で一緒に寝ているのだ。

「おや・・・おはようございます。」
ハッター先生が起きた。

「ふあゝ、あれれえ？エージェ君がいるよあゝ」
マーチ先生も起きた。

俺は考える。二人とも男だよな・・・。

「あの・・・なんで、マーチ先生と一緒に寝てるんですか？」

気になったので、訊いてみた。

「兎族って、寒いのが苦手なんだよぉ。だから、一緒に寝たんだぁ」

じゃあ、服を着てください。

「でもねえ、ハッターが全然寝かしてくれないんだよぉ」
「マーチ君が可愛かったので寝かせたくなかったんですよ。」
せめて言い訳をしてください。

「ボクは嫌だつて言っただよぉ」

「でも、すごい良い声で喘いでましたよね。」
。。。。

「そ、それはぁハッターがあ。。。」
「言い訳は良くないですよ。あんなに感じてたのに。」
。。。。

「ち、ちがうよぉ。。。」

「じゃあ、体にききますか？」
。。。。

「ちょ！や、やめ。。。」

「おや、体は正直ですね。」

大人なんて。。。。

「や。。あ。。。」

「ここなんか、もうこんなになってますよ。」
大人なんて。。。。

「ら、らめええ・・・」

「それでも、感じてないなんて言えますか？」
大人なんて・・・。

「大人なんて大嫌いだ！！！」

走り出す俺。

その目には涙が浮かんでいた。

その日から5日間、エージェは人間不信になったとさ。

お

しまい（笑）

(後書き)

最後のエージエの台詞・・・

ゲ 戦記で聞いたことがあるようなフレーズだな・・・
気のせいかな？

気のせいだよな。

気のせいだよね！！

見てくれた方、ありがとうございます！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8230n/>

笑談～ぐっどもうにんぐ編～

2010年10月10日17時41分発行